グリニッチ福音キリスト教会 週報付録 136 号

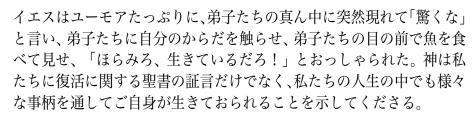
MANNA マナ 2014年5月25日

【先週の礼拝メッセージ】ルカ 24:36~53 より

「復活された主が教えられたこと」

ルカは復活のイエスの教えを私たちに書き記してくれたが、今なお重要な教えである。

● 36~43 節 わたしは本当に生きている!



JESUS

● 44~47 節 聖書(旧約)はわたしについて語っている!

エマオの二人や、11 弟子、その他の弟子たちに 40 日間イエスがなさった主要な教えは、旧約聖書のどの部分がご自身について語っており、預言がどのように成就したか、についてであった。旧約聖書には、全ての基礎となる「世界観」が示されており、「イエスはなぜ来られたのか」という問いに対する答えがすべて記されている。私たちも旧約を熱心に学び、福音の全貌を理解し、人々に分かち合えるようになりたい。

● 47~49節 御霊に満たされてわたしの証人となりなさい!

世界中に福音を伝える務めのために弟子たちは選ばれ、私たちも選ばれている。上記二項目を確信し、理解していることは証人となるための大前提であるが、本当に力ある証人となるためには、それだけでは足りず、神の御霊に満たされる必要があったのである。この原則は現代においても同じであり、私たちは御霊に満たされて宣教に進むのである。

★ イエスの気持ちを考えよう!

イエスは、昇天までの短い時間に、世界宣教という大仕事を一握りの人たちに委ねようとしていた。今、私たちの数も少ない。しかし「少人数」+「御霊の力」=「リバイバル」であることを覚え、私たちも御霊の満たしを熱心に求め、主に用いられるようにしていこう!■

【人と比較する生き方の危険】

「世をも、世にあるものをも、愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。」第一ヨハネ2:15~16

- ●この聖書の言葉は私たちが幸せに生きようと思うなら、どうしても心に刻んでおかなければならないものです。ここで「世」と言われているものは<u>「神さまから離れた世界があなたに幸せを約束するシステム」</u>…つまり、物の考え方、哲学を指しています。この<u>システム</u>によると人は、三つの分野(肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢)が満たされたら、幸せになれると言うのですが事実は正反対なのです。
- ●**肉の欲**:食欲、睡眠、性、等々の欲求は本来神が作られたもので良いものですが、限度を超えたり、ルールを破るとどうなるでしょうか。病気、貧乏、家庭破壊が起こり、人は不幸せになります。
- ●**目の**欲:本来、創造性や、良いものを求める性質は神から来ており、 奨励されるべきものです。しかし、衣服、宝石、自動車、旅行等々、よ り「いいもの」が次々欲しくなって、その「入手」が人生の目的になっ てしまうなら、非常にずれた人生をおくることになってしまいます。
- ●しかし最後の暮らし向きの自慢はもう一ひねり入ります。これはもはや何をどれくらい(分量)ではなくて、誰より多い、誰より少ない、と人と比較して「優越感」を味わう歪んだ世界です。「俺の方が凄いだろ~」と言っているうちはまだカワイイかも知れませんが、清貧に生きる宗教者が「私は良い車ではなく、主のために、こんなポンコツ車に乗っている」と言って密かに他を見下し、自分の宗教性を自慢するレベルになると深刻です。「暮らし向きの自慢」の世界に生きている人は、常に世界の中心に自分がいるため、人と真の関わりもつことができなくなってしまい、人間性そのものを喪失してしまう危機に瀕しているのです。